

BGM音量とマスキング効果の関係

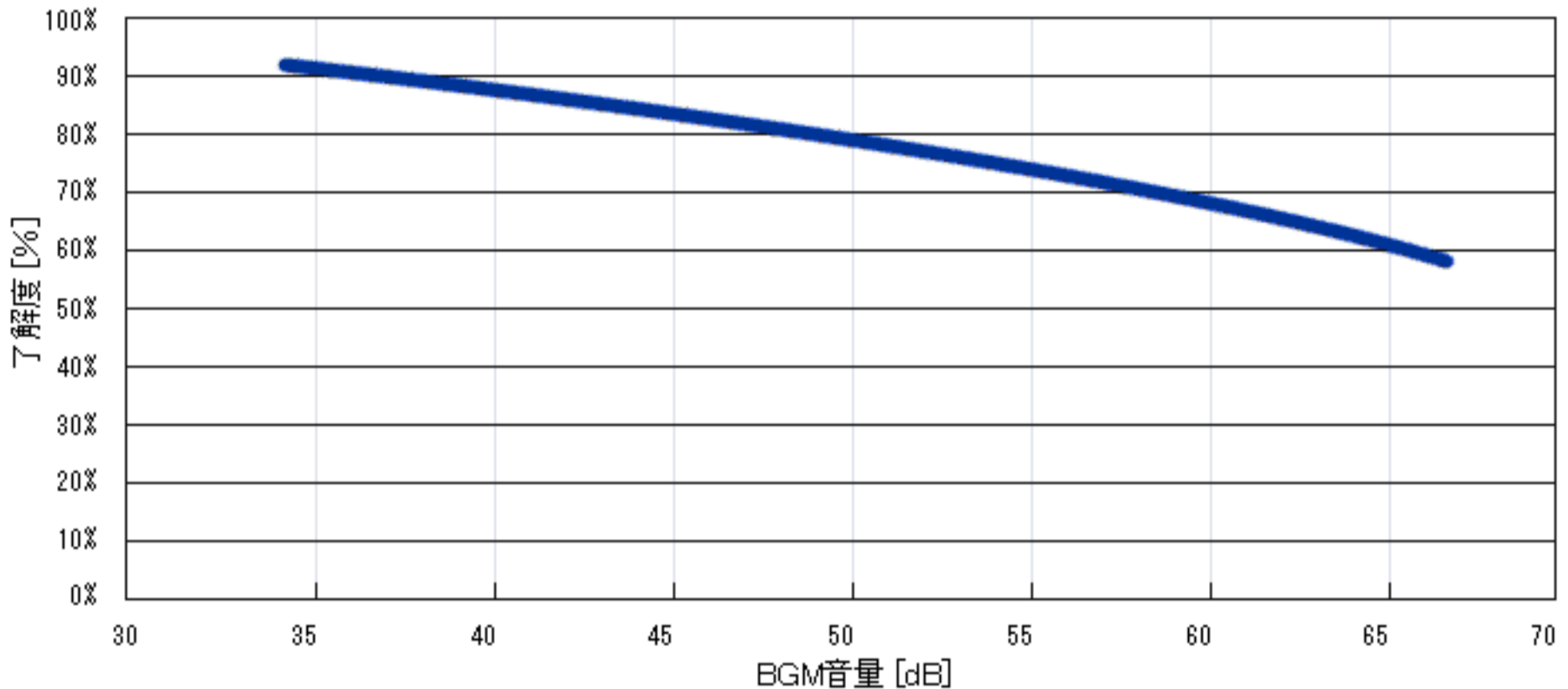
今回は、オープンオフィス(※1)において適切な音量で「C/G-65 オフィスBGM (powered by KOKUYO)」を流した場合のマスキング効果について説明しました。

では、その“適切な音量”とはどの程度の音量をいうのでしょうか。

下の図をご覧ください。これは、オープンオフィスにおいて「C/G-65 オフィスBGM (powered by KOKUYO)」の12:00～16:00の時間帯に使われる音楽を流した場合の「BGM音量と了解度(※2)の関係」をグラフ化したものです。BGM音量は右にいくほど大きく、会話の了解度は下にいくほど低くなっています。

BGMと了解度の関係

測定:コクヨエンジニアリング&テクノロジー株式会社
会話音源レベル ANSI Normal(男、女声の平均値) 暗騒音 42dB



※セキュリティ目的(金融機関など)で、より高いマスキング効果を必要とされる場合は、了解度20%以下が理想的です。

BGMの音量を大きくするほど、会話の了解度が下がっているのがわかります。

しかし、オフィスでは、あまりにも大きな音量でBGMを流すとそれ自体が騒音になってしまいますね。

オフィスの音環境を研究するコクヨエンジニアリング&テクノロジー株式会社では、オフィスでのBGM音量は40～50dB(デシベル)を推奨しています。音量を測定する騒音計という測定器もありますが、50dBとは一般に「静かなオフィス」の騒音の大きさとされています。(※参考 地下鉄の車内:80dB 鉄道のガード下:100dB オートバイの加速音:120dB)
オフィスでは、普通に音楽を楽しむときよりも小さな音量のBGMが良いと考えています。

執務スペースでのBGMの役割

ふと仕事の手を止めたとき、周りの人のキーボードを叩く音や電話対応の声の代わりに、心地よい音楽が流れていれば「癒される」という声もあります。BGMの特徴を使うことで、より快適なオフィス環境を作ることができると思います。

一口にオフィスといっても、環境は様々です。たとえば、コールセンターなど電話の多い会社では、受話器を通して相手側に聴こえる騒音やBGMにも注意が必要です。また、スピーカーや席の配置により、個々の社員に聴こえるBGMの音量にバラツキが生じることもあります。可能であれば、騒音計を用いてBGM音量を測定するか、専門家にご相談されることをおすすめします。

■USENの法人向け音楽放送サービスホームページでは、「オフィスでのBGMの選び方」などもご紹介しています。おすすめ番組の試聴もできますので、ぜひご覧ください。

(※1)オープンオフィスとは、間仕切りがなく直接会話の届く空間のこと。

(※2)了解度とは、男性の声や女性の声でことばを標準レベルで流してどの位理解出来るか試験するものです。

…第4回は、オフィスにおけるBGMの音量についてご紹介しました。今後もオフィスの音環境に関する記事をお届けします。次回は8月更新予定です。(更新時期は変更される場合もありますので、予めご了承ください)

[《これまでの連載コラムはこちら》](#)